

日時：平成26年8月19日

午後1時30分から午後3時まで

会場：瀬戸市役所 4階 大会議室

委員の参加者数：委員15名中13名参加

(欠席：小林委員・青山委員)

【議事】

1 議題

(1) 「量の見込み」の算出及び確保方策について “愛知県とのヒアリング結果を受けて”
資料に基づき説明

(委員からの意見)

○ファミリーサポートセンターについて、年度によって実績が大きく異なるが、何か原因があるのか。

(事務局 回答)

詳細な分析データがあるわけではないので客観的なことは判断できないが、幼児保育の受入の拡大や保育所一時預かりの利用が増えること等により、利用が少なくなっているのではないかと考える。

○地域子育て支援拠点事業について、学童保育などは入っていないのか。

(事務局 回答)

学童保育は入っていない。ただし近隣市では児童館等で学童保育を実施し、子育て支援センターとの併設で実施している事例もある。

○量の見込みについて、養育支援訪問事業は予算の問題で抑えられている現状もあるのではないかと考える。今足りているかどうかとも検討したうえで決定していただきたい。

(事務局 回答)

予算的に何か制約があるわけではない。数値として見込みづらい状況であるが、この数値以上の必要性があれば必ず実施していくことを前提とする。注釈の中で方針の記載をしていきたいと考える。

(2) 計画の基本理念について

資料に基づき説明

各委員から以下の検討事項を発表

【検討事項】

① 瀬戸に暮らす子にどのような大人になってほしいか。

② 子育てをするうえで、瀬戸市にどのような街になってほしいですか。

③ ①②を実現するために、どのような子育て支援が必要でしょうか。

(委員からの意見)

○①は思いやりのある大人になってほしい。②は安心・安全なまち、子どもの声が聞こえるまちになってほしい。特に、現在住んでるところが子どもが少ないため、シルバータウンになる前に、子育てしやすく活気のあるまちになってほしい。

○①は日本全体の話になるが、高齢化社会等、将来予測される厳しい環境でも自分の足で生き抜くたくましさがあり、他者への思いやりをもった大人に育ててほしい。くじけない強さを見つけてほしい。②は全員がわが町の子という文化があるまちになってほしい。③は、親に対して子育ての悩みや不安を行政だけでなく、近隣にも相談ができる、まちぐるみの子育て支援が必要であると考え。10歳くらいまで預けられる子育て環境が必要。誇りや愛着をこの町にもってもらうことが必要。職場で事業所内保育所等を拡充して働きやすい子育て環境の整備が必要。

○①は、心身ともに健康で自分も人も大切にできる。自分で考え行動できる大人になってほしい。②は、子育てをする人が孤立しないまち、親育てをできるまち、子どもの好奇心を刺激し可能性を引き出せるまちになってほしい。③は、親に対して就労支援、育児の講演会・ワークショップなどの実施、能動的な働きかけを行うことが必要である。

○①は、ふるさとを愛せる人になってほしい、自然があるところや瀬戸の文化の伝承ができるまちになってほしい。

○①は、生きることを楽しむ人、夢のある人、瀬戸を愛する人になってほしい。②は、家族の絆が深められるまちになってほしい。

○①は、元気で明るく、社交性に長けた人になってほしい。②は大人になっても瀬戸に住み続けたい、外に自慢できるまちになってほしい。自然環境が豊かで、雇用の場が拡大し、住み続けられるまちづくり。行政も地域も全世代が交流できる場づくり。子どもに対して、働くことの楽しさや重要さを伝えられればよい。親の責任のもとでアルバイトやお金を稼ぐことについて教えられたらよい。

○①は、健康で人の気持ちがわかること、目標をもって行動する人、新しいことに挑戦しながらも古い習慣を大切にしてくれる人。②は、安心・安全・便利が基本。結婚できること、子どもをもつことの魅力が伝えられるとよい。そのための就労支援が必要である。

○①は、社交性が重要、夢を持つことも重要である。②は、子どもが子育てに関心がもてるまちになったらよいと思う。緑ゆたかである点、地場産業の発展、働ける場所があるまち。③は、子どもに対して善悪の判断などができるような教育が

必要。人口減少により伝統が失われる可能性もある。

○①は、世代を越えて人とつきあえる社会性をもった大人。②は、自然と親しむことができるまち。自然の中で学ぶことはとても多い。まちとして子育てを支援するということをアピールできるとよい。③は身近な地域のまちづくり。子育て、「親育て」とともに、「子育て」という視点も必要である。

○自然にめぐまれた地域であるため、地域を区切って、子育て特区のようなものを設定してはどうか。そのような地域に住むことで、子育て家庭にとって利点があるような取組もできるとよい。子どもたちには社会をよくするための担い手となってほしい。子育てに対する自覚や責任感を育てるためのサポートも必要であると考えられる。小学校以降は安全で質のよい環境を提供することが必要である。学童保育以外に健全に過ごせる環境などがあるとよいのではないか。

○人と人とのつながりをもてる大人になってほしいと思う。気軽に相談できて多様な支援があるという環境が必要である。小学校以上の子どもたちの支援も重要になる。

※今後は、今回の委員からの意見を基に、キーワード等を抽出し、計画理念に関する議論を行う。

(3) 子ども・子育て支援事業計画の構成について
別紙計画骨子案について説明。

※今後、子ども・子育て会議の議論の中で子育て支援メニュー等を検討していく。

(4) その他
病児・病後児一時預かり事業の説明

次回 第4回子ども・子育て会議は、11月頃を予定。